

僕を変えた出会い

愛知県

江南武道館

中学2年 東 駿 和

僕が所属する江南武道館には、毎年、徳島眉山ライオンズクラブと交流する行事があります。僕が小学校六年生の時は江南ライオンズクラブが徳島県に出向き、交流する年でした。僕は徳島の剣友の家に泊まり、翌日、交流試合を行いました。今振り返ってみても、思い出に残る有意義な時間でした。

その一年後、僕のもとに一通の手紙が届きました。手紙には、徳島で寝食を共にした剣友が稽古中に足に痛みと違和感を感じ、そのまま歩行困難となり、今は車いす生活を送っていると書かれていました。僕は、大きなショックを受けました。そして、何不自由なく剣道ができる今に感謝しなければならない、剣道ができる日常は当たり前ではないことに気付きました。僕が剣道をしていなかったら、この出会いはなかったでしょう。剣道が僕らをつなげたのです。僕は剣道を学んでいて良かったと強く感じました。

僕は「縁尋機妙 多逢勝因」という言葉が好きです。良縁は次から次へと良い縁を結び、良い人との出会い、良い書物との出会い、良い師との出会い、それら全てが良い結果を生む。良い人とも良い事とも絶妙なタイミングで出会うが、それを引き寄せるのは、自らが作り出した縁である。良縁は良縁を引き寄せるという意味です。

必要のない出会いというものはありません。必ず、何かしらの意味があります。僕は彼と「剣道」という縁で出会いました。この出会いにも何か意味があります。その意味をこれから生み出していく。そして、この大きな縁が、また良縁を生み出すのではないのでしょうか。

僕らの周りには、気付いていない大きな出会いで溢れています。家族との出会い、道場の先生、仲間との出会い、学校の友との出会い、それらには全て大きな意味があります。しかし、僕らはそれに気付いていません。これは大きな問題です。この意味は、気付いてからこそ生み出されるものだからです。気付くことが出来れば、全ての出会いに感謝し、人に対して謙虚になることができます。そしてその姿勢は再び良縁を生み出していきます。僕は彼との出来事で人との出会いに対する考え方が大きく変わり、気付いていない出会いにも目を向けるようになりました。

皆さんも、様々な出会いに目を向けてみてください。そして目を向けたら、与えましょう。

「ただ与える」ことが重要です。ギブ&テイクではなく、ギブ&ギブでなければいけません。見返りを期待することなく、裏切られてもいいから、ただ与える。与えることは、好きになること、大切にすること、挨拶をすること、そして感謝することです。風呂にたまった水が欲しいのなら、自分から水を与え続けてこそ、風呂の水は溢れる。僕は父にそう教わりました。周りに与えていれば、いつか自分が困った時、必ず誰かが助けてくれると僕は信じています。これは剣道にも通じます。僕は昨年、愛知県尾張地区の団体戦で優勝しました。まさか優勝できるとは思っておらず、奇跡だと感じました。今思えば、部活動で仲間と出会った時から、優勝という奇跡は起こるかもしれないひとつの可能性として既に僕らを待っていたのかもしれませんが。そのときは決して必然の未来ではなかったでしょう。しかし、僕らは先生・仲間との出会いに感謝し、互いに与え与えられて、ついに優勝しました。僕らの出会いに対する姿勢が、優勝という奇跡を必然にしたのだと思います。

僕らは、「全日本剣道少年団・実践作品体験発表会」という形をもって皆さんと出会いました。この出会いの先には、僕らが想像もできない奇跡が待っているでしょう。この出会いが、この大きな縁が、剣道界にとって有益な意味、奇跡を生み出すことを、僕は心から願っています。

「縁尋機妙 多逢勝因」